

< イベント情報 >

2002年11月14日
タワーレコード株式会社

タワーレコード フリーマガジン 『musée』・SPIRAL 『CAY』
合同企画・制作イベント第四弾
intoxicate ~ blue lotus 開催！！
~ “JAZZ” は、もっといろいろな場所にあるのかもしれない...。~

タワーレコード株式会社（本社：東京都品川区 / 代表取締役 CEO：キース・カフーン）では、2002年12月27日（金）に、弊社フリーマガジン『musée(ミュゼ)』¹とSPIRAL『CAY(カイ)』²（レストラン BAR・SPIRAL B1F/南青山）の合同企画・制作イベント「intoxicate(イントキシケイト)」の第四弾、「intoxicate ~ blue lotus (イントキシケイト ~ ブルー ロータス)」を開催することとなりました。

「intoxicate ~ blue lotus」は、昨年から独自のコンセプトでスタートした「intoxicate ~ Red“tight skin”」（12月26日開催）、「intoxicate ~ White “soft skin”」（1月28日開催）、「intoxicate ~ GODARD MINUS ONE」（6月8日開催）に続く第四弾イベントとなります。今回のイベントは、現在『musée』の表紙「blue lotus」シリーズ（2001年11月20日発行～）を手がけている内藤忠行³氏のスライド映像や来年公開予定の映画『ピニエロ』（音楽：キップ・ハンラハン）のメイキングの上映、さらに様々な個性のかつ魅力的なアーティスト⁴達のライブで構成されています。

今夏、Mt.Fuji や斑尾ジャズ・フェス、東京 JAZZ などの大規模な野外ジャズ・フェスが復活し、“JAZZ”がより幅広い層の音楽ファンの関心をひきました。また、「大人の音楽」というイメージの4ビートに代表されるような王道の“JAZZ”ばかりではなく、フューチャー・ジャズと呼ばれるようなクラブ系 JAZZ も多くの若いユーザーに支持されている今日、タワーレコードは、“JAZZ”という語感やイメージに魅力を感じている音楽ファンや、もう一步音楽に踏み込もうとする人々に対して、“JAZZ”のもつ緊張感や開放感をこのイベントで表現します。

本イベント「intoxicate (イントキシケイト)」は、タワーレコードのフリーマガジン『musée』が青山 C A Y の協力を得て企画・制作するイベントです。イベントに登場するアーティストや音楽については、『musée』の編集方針をそのまま反映、ジャンルやカテゴリー、有名無名にとらわれず、様々なキャスティング、セレクトを行なっていきます。このイベントを通して、既存の価値観では捉えにくい視点、既存の価値観では生まれにくい好奇心を提供することによりタワーレコードのユーザーに対し、更なる音楽への興味・関心を促します。

タワーレコードでは、今後、定期的な開催を予定し、20代後半から40代後半をターゲットに、大胆な企画を行なっていきます。次回開催は3月を予定しています。

1 『musée』(ミュゼ)

1996年創刊。現代音楽・クラシックを紹介するフリーペーパーとして出発する。当初から国内では紹介される機会のなかった分野の音楽情報を掲載し、若い評論家、若いリスナーから熱烈な支持を受け、今日に至る。現在では音楽以外の情報（映画、本、伝統芸能など）に加え、ユニークな連載記事（楽しいお買い物紹介“トロピック・アビタイト”、音楽と言葉“メタムジーク”など）を掲載するなど、単なる情報誌という枠を超えて、読み物として楽しむ読者も多い。1999年にはECMというレーベルの30周年にあわせて、独自のイベントを企画し、話題となった。音楽を基本テーマとして、様々な話題を取り上げるという編集方針により、世代を超えた読者にアプローチしている。

2 『CAY』

東京のアートの発信地、青山スパイラルの1フロアとして、ビル創設の16年前が創業。高級タイ料理のレストランとしてスタートしたCAYは、当初よりワールドミュージックを中心としたライブ・イベントを開催し、多様な文化の発信拠点として盛況となる。現在は、平日月曜日から金曜日まではタイレストランとして営業、土日祝日は多目的なイベントスペースとしてジャンルを問わず、音楽を中心とした様々なイベントを開催中。そのイベント内容は、ワールドミュージックから最先端のエレクトロニックミュージックまで多岐に渡り、確実に東京の今を感じさせる。

3 内藤忠行氏のプロフィールは、別紙ご参照下さい。

4 出演アーティストの詳細は、別紙ご参照下さい。

イベント詳細

- 名 称：intoxicate ~ blue lotus (イントキシケイト ~ ブルー ロータス)
~ “JAZZ”は、もっといろいろな場所にあるのかもしれない...。~
- 日 時：2002年12月27日(金)
19:00/オープン 20:00/スタート
- 場 所：CAY (SPIRAL B1F/南青山)
- 出演アーティスト：映像
・内藤忠行 (内藤忠行公式サイト <http://www.p-om.net>)
ライブ
・エル・ネグロ&ロビー・バンド
・東京ザヴィルヌルバッハ (+ “エル・ネグロ”オラシオ・エルナンデス)
・コンボピアノ (+ 鈴木正人 + 内田也哉子 + ロビー・アミン)
・南博 (+ GOTH - TRAD)
・GOTH - TRAD
全7アーティストのプロフィールは別紙3ページ目をご参照下さい。
- チケッ ト：前売 ¥3,300 (税込) 当日：¥3,800 (税込)
・CAY (03-3498-5790)
・チケットぴあ (03-5237-9999 ・ Pコード：143-908)
・ローソンチケット (03-5537-9999 ・ Lコード：34503)
・タワーレコード渋谷店
・タワーレコード新宿店
- お問 合 せ：CAY (03-3498-5790)
- 企 画・制 作：タワーレコード株式会社 ミュゼ編集部 / 株式会社ワコールアートセンター SPIRAL
協 賛：株式会社イーストワークエンタテイメント / 株式会社コルグ / エプソン株式会社 /
パール楽器製造株式会社 / ヤマハ株式会社 / 株式会社ユナイテッドアローズ /
スローラーナー / 株式会社メディア・スーツ

タワーレコード 会社概要

- 会社名 タワーレコード株式会社 / TOWER RECORDS JAPAN INC.
- 創立 1979年8月
- 設立 1981年12月
- 資本金 約29億円
- 事業内容 音楽ソフト、映像ソフトおよびこれらの付属品ならびに楽譜、ポスター・書籍等の
輸出入・卸・販売。同オンラインでの販売。楽曲および著作物の著作権管理。
楽譜の製作、出版および販売。楽曲の原盤の製作および広告宣伝。
- 代表者 代表取締役 CEO キース・カフーン
代表取締役 COO 森脇 明夫
- 従業員数 1,750名 (うち正社員 360名)
- 沿革 1979年、アメリカのMTS社の日本支社としてスタートし、1981年に日本法人タワーレコード株式会社となる。2002年10月、
MBOによる独立、新体制を発表。日本国内に54の直営店舗を展開している。また、Eコマースサイト「@TOWER.JP」、音楽情報サイト
「bounce.com」の運営、発行部数40万部の「bounce」などフリーマガジンの発行も行なう。

お問い合わせ

タワーレコード(株)広報室 木田暁子 伊早坂恵美 TEL:03-3496-5009 FAX:03-3496-5022

E-mail : press@tower.co.jp <http://www.towerrecords.co.jp/>

〒150-0041 東京都渋谷区神南1-21-1 日本生命渋谷ビル9F

別紙 : アーティスト プロフィール artist profile

内藤忠行 ~ ジャズを主題にした作品を多く発表。ジャズへの傾倒は、74年から始まるアフリカ取材へと展開し、アフリカの大地に集うシマウマのストレートなカラー写真から、コラージュやソラリゼーション、多重画面などを駆使したシンメトリーな抽象表現まで、ゼブラのモチーフを繊細かつ大胆に表現した。同様の作風は、90年の桜を主題にした《SAKURA-COSM》にも引き継がれ、T字型12面によるシンメトリーな作品によって、幻想的な桜の世界を表している。他にレコードやCDなどを製作。多才な才能を発揮している。

エル・ネグロ&ロビー (“エル・ネグロ”オラシオ・エルナンデス&ロビー・アミン) ~ 1999年に発表されたディープ・ルンバ『this night becomes a rumba』でデビューしたダブル・ドラムのユニット。チャンギートの流れを汲む彼ら二人が四つの手足、つまり彼らの場合八つを駆使して、ソングの伝統をルンバ・ベースで発展させる。そもそもストリート・ミュージックであるルンバを、ストリートで蘇生させるという彼らのたくらみから、新たに派生したのがこの「エル・ネグロ&ロビー」。2002年7月にファースト・アルバム『El Negro & Robby at the third world war』をリリースした。

*** エル・ネグロ&ロビー・バンド ***

“エル・ネグロ”オラシオ・エルナンデス(Ds): ゴンザロ・ルバルカバ、ミシェル・カミロ、マイケル・ブレッカー、サンタナなどと競演。今秋、カミロ・トリオで来日。

ロビー・アミン(Ds): ルベーン・ブラデス、ポール・サイモン、デージー・ガレスピー、エディ・パルミエリ、モンゴ・サンタマリアらと共演。キップ・ハンラハンとは十年來の付き合いとなる。また近年では綾戸智絵のリズムセクションとして活躍。

カルロス・デル・プエルト(B): イラケレを創った世界的なベーシスト、カルロ・デル・プエルトの息子。ゴンザロ・ルバルカバ、チューチョ・ヴァルデス、のキューバなビートをサポートしつつ、ダヴィド・サンチェス、ステイヴ・コールマンといったアフロ・キューバン=アメリカンの新しいグループをクリエイトする新しいタレントとして、幅広く活躍している。

ジョン・ピースリー(Key B): マイルス・デイビスの『アラウンド・ザ・ワールド』(WB)に参加したマイルス・スクールのひとり、あるいはステイラー・ダンのレコーディングをサポートしたアレンジャー、キーボーディストとして知られる。ジャズ、ヒップ・ホップ、ラテンをミックスしたウエイン・ショーター好きなセンスで、様々なセッションに参加する人気者。

ヨスヴァニー・テリー(Sax&Chekere): シェケレを演奏する一族に生まれ、90年にキューバで行われたサクソ・コンペティションで最優秀賞を受賞。現在はニューヨークを中心に活躍し、ラヴィ・コルトレンとともに高い評価を得ている知る人ぞ知る逸材。エディ・パルミエリから、ステイブ・コールマンまでをサポートする。

ペドロ・マルチネス(percussion): 今ニューヨークで最も注目されているルンバ・アーティスト。その官能的なダンス、スピーディーなコンガ、そして熱い声、彼のすべてに注目が集まる。2000年のモンクコンペティション・ドラム部門の覇者。映画『CALLE54』や、キップ・ハンラハンのプロジェクトでの活躍で知られる。初来日。

ブライアン・リンチ(trumpet): 最晩年のアート・ブレイキーのジャズメッセンジャーズに参加。現在はエディ・パルミエリのバンドでミュージックディレクターを務める。プリンスやレニーのレコーディングにも参加する才人。

東京ザヴィヌルパッハ ~ '99年1月、坪口昌恭(key)のアイデアを菊地成孔(sax, CDJ, key)がプロデュースする形で結成。MAC上で走るジェネレーティブ・シーケンスソフト“M”を使い、リアルタイムに変化する打ち込みリズム隊+インプロヴァイザーという唯一無二の形態で、微妙なランダム感やコラージュ感のあるグルーブを表現している。2002年4月、アルバム『Cool Cluster』をリリース。来春、エル・ネグロとのセッションによる次作をリリース予定。

コンボピアノ ~ 異才ピアニスト/コンポーザー、渡邊琢磨によるプロジェクト。ミディクリエイティブから2枚のアルバムをリリースの後、2001年アメリカン・クラヴエのプロデューサー、キップ・ハンラハンとコラボレイトしたアルバム『another rumor』、リミックス盤『pinup is tape back』をリリース。2002年8月、アメリカン・クラヴエよりリリースされたエル・ネグロ&ロビーの『El Negro & Robby at the third world war』にも作曲・ピアノで参加している。甲斐田祐輔監督作品、映画『すべては夜から生まれる』主演:西島秀俊の音楽を担当。12月下旬より渋谷シネ・アミューズにてレイトロードショー(配給:スローラーナ)。

内田也哉子 ~ 1976年、父・内田裕也、母・樹木希林の間に東京で生まれる。幼少の頃より、東京・ニューヨーク・ジュネーヴ・パリなどで転々と学ぶ。19歳で帰国、本木雅弘と結婚。現在、二児の母であり、育児のかたわら文筆活動を行う。著書に『ペーパー・ムービー』(朝日出版社)。翻訳絵本に、マーガレット・ワイズ・ブラウン著『たいせつなこと』がフレーベル館より刊行。『会見記』(リトル・モア)。TERRI WEIFENBACH(テリ・ワイフェンパッハ)写真集『HUNTER GREEN』(NAZRAELI PRESS)の序文。近著『親と子が育てられるとき~Quiet garden』岩波アクティブ新書刊。

南博 ~ 東京生まれ。'86年東京音大卒業後、'88年には、アメリカ、パークリー音楽大学に留学。作曲パフォーマンス課程を卒業する。打楽器を菅原淳、有賀誠門に師事、ピアノを宅孝次、Christian Jacob、Steve Kuhnに、作曲をAlex Uranovskyに師事する。ピアニストとして、また作曲家として国内外のグループに客演、作品提供を行うほか、コンスタントに自己のリーダーアルバムを発表し続けている。'01年リリースのカルテット1st Album『GO THERE!』は各方面より話題を呼び、'02年12月には、怒涛のリミックスアルバム(クラブシーンの重鎮たちが参加!)『MINAMI HIROSHI MINIMA』を、菊地成孔氏プロデュース分3曲を含む2nd Album『Celestial Inside』と同発する。

GOTH-TRAD(ゴストラッド) ~ サンプラー、キーボード、そして自作楽器群を自在に操り、テクノを始め、ヒップホップ、クラシック、現代音楽、ノイズミュージックに至る幅広い音楽性に裏付けられたサウンドを生み出し、その音楽性の高さが評価されている。2001年9月、日本最大のテクノ野外イベント“メタモルフォーゼ”にて、秋本“heavy”武士と結成したユニット“REBEL FAMILIA(レベル・ファミリア)”を始動。2001年12月には、フランスの船上パーティー“Batofar(バトファー)”に単独で参加。2002年4月、REBEL FAMILIAの1stシングル『STAND ALONE/GLADIATOR』を発表、2003年2月には1stアルバムもリリースする。2003年3月、待望のGOTH-TRAD名義でのファーストフルアルバムをeweよりリリースする予定。